天寧寺 薬師堂

1365年に建立された天寧寺は、臨済宗の愚中派に属した寺です。創始者の愚中周及は天寧寺の僧侶になる前に、京都と中国の僧侶の下で修業を受けています。

薬師堂（薬と癒しの仏を祀ったお堂）は、大きな火災ののち、1794年に再建されました。この薬師堂は1961年の火災で残った数少ない建物のひとつです。その後、薬師堂の屋根は大雪の被害を受け、瓦葺だった屋根は木の柿葺に置き換えられ元々の外観に戻りました。また、龍の天井画は著名な画家の原在中（1750年～1837年）によるものです。そして祀られている薬師如来は平安時代（794年～1185年）のものになります。この薬師堂自体が京都府指定文化財に登録されています。

また、薬師堂の隣にある六角形の開山堂（創始者を祀ったお堂）も京都府指定文化財です。1人の仏を祀る多くの開山堂とは異なり、この開山堂には2つの仏の像があります。1つはこの寺の創設者である愚中周及で、もう1つは中国で愚中周及が師事した僧侶である即休契了（1269年～1351年）です。